

地域ネットワークだより

鹿児島・西日本のグルメ大集合!

MBC 春のグルメフェスタ

3月16日(土)17日(日)の2日間、『MBC春のグルメフェスタ』を初めて開催しました。

MBC 春のグルメフェスタ

初めての開催となる MBC 春のグルメフェスタ

鹿児島と西日本のグルメが大集合!
豪華ゲストもアミュ広場に来るよ!



▲▲会場のAMU広場

【鹿児島のグルメが大集合!】

会場の鹿児島中央駅前には、とれたての新鮮野菜や加工品、スイーツなどが並ぶ「うんまかグルメゾーン」や、新幹線で結ばれている広島、岡山、関西のグルメやスイーツが並ぶ「山陽新幹線で行くぐるめぐり旅ゾーン」などあわせて約30のブースが出展しました。山陽新幹線沿線の出張駅弁コーナーは人気で、早い時間に完売となっていました。

また鹿児島のお取り寄せ通販サイト「かごしまぐるり」とMBCがタイアップした「こだわりの逸品ゾーン」では、垂水市の熟成紅はるかを使った芋スイーツや桜島小みかんを使用した小みかんこしょうなど作り手がこだわった品々が並びました。さらにそれらをインターネットを通じてライブ配信し、気になる商品をオンラインで購入できる試み、ライブコマースも行いました。



【会場を盛り上げたステージイベント】

また2日間、ステージイベントには様々なゲストが登場しました。歌声で会場を魅了したジミー入枝さん。そして大阪からやってきた芸人をお目当てに2日間大勢の来場者で賑わいました。



▲ステージで食材をPRする出展者

「旅立ちの春」取材同行記

1984年にスタートした「どんと鹿児島」(水・午後8時放送)はことし番組開始40年の節目をむかえます。

4月17日(水)の放送は県内各地で見られた旅立ちの光景をまとめた「旅立ち2024春」をお送りしました。3月末に行われた種子島取材に同行しました。



「バンザイ!」「ありがとう」岸壁でたくさんの言葉が交差します。

3月最後の土曜日、種子島・西之表港では異動で島を離れる先生達の見送りセレモニーが行われていました。

学校ののぼりや横断幕が岸壁に所狭しと並ぶなか、同僚の先生や在校生、父兄に加え、集落の住民まで多くの人が島を離れる先生を囲みます。学校ごとに輪になり、出港時間ギリギリまでエールを送り、校歌を歌い、別れを惜みます。

「コロナ禍で大変なことも多かったが一緒に集落の行事に参加したり、釣りに行ったり、あたたかな人ばかりだった」種子島での教員生活をふりかえる先生の目には光るものがありました。

午後1時45分、長い汽笛と共にフェリー「プリンセスわかさ」は出港します。

見送る側、見送られる側、互いの名を呼びあいなから手を振ります。岸壁と船の間を結んでいた

紙テープが春風に舞い、虹のようにたなびきます。

「堤防の先まで船を追いかけてくる子どもたちを見ると毎年感動します、この季節はいつもよりゆっくりと船を進めます」と、「プリンセスわかさ」の上床剛船長は話します。

出港してしばらくすると、乗組員が船の手すりに結びつけられた紙テープを丁寧に巻き取っていました。紙テープでの別れの風景は安全面の配慮などから岸壁での見送りが制限され、見られる港は少なくなってきました。

令和の時代も変わることのない別れの光景とそれを支える人たち。MBCの動画サイトでもその模様を見ることができます。



かごしま 防災スイッチ MBC

MBCでは「かごしま防災スイッチ」と題して、県内の防災の現状や今後のあり方などを検証し、様々な災害から命を守るための放送活動を行っています。

テレビでは「MBCニュースナウ」で「東日本大震災から13年」など節目ごとに特集を放送しています。またミニ番組「かごしま防災スイッチ」(土・午後0時55分～)では、防災に関する話題や災害のアーカイブ映像のほか、枕崎市や湧水町の防災訓練、屋久島町や大崎町で行われた外国人対象の防災勉強会など市町村の取り組みも放送しています。

ラジオでは「ゆうぐれエクスプレス」(月～金・午後6時～)の中で市町村の防災担当者が電話出演し、防災への取り組みや呼びかけなどを行っています。また、野口たくおさんと笹田美樹さんによるユーモラスな鹿児島弁の掛け合い「さつま防災狂句」で防災のポイントを紹介しています。

MBCのホームページにまとめたサイトがありますので是非一度ご覧ください。

また市町村からの要望に応じてMBCの気象予報士を防災勉強会の講師として派遣しています。お気軽にご相談ください。



▲防災訓練(湧水町)



▲外国人住民を交えた防災勉強会(屋久島町)



▲災害時相互支援協定締結式(始良市・志布志市)



災害から命を守る「MBC地デジ波×IPDC」



IPDCとは、テレビの放送波を使用して各家庭に防災、災害情報を一斉伝達する試みです。設備の堅牢性や世帯カバー率ほぼ100%という地上デジタル放送の特性をいかした情報伝達手段として注目を集めています。

MBCでは2月に自治体向けデモンストレーションをMBC本社で実施しました。デモンストレーションには各自治体の防災担当者がリアル、オンラインのハイブリット形式で参加し、IPDCの基本的な技術の説明、実際に受信機が受信する様子を見学し、イメージを膨らましていました。

デモンストレーションの後は各自治体からも感想をいただき、活発な意見交換の場となりました。MBCでは今後もIPDCの実用化を視野に研究や実験を続けていきます。



▲IPDCデモンストレーションの様子



▲IPDC受信機

新ポニーメイツ始動!

ラジオカー「ポニー号」に乗ってラジオやテレビで地域情報をレポートする「ポニーメイツ」の新メンバーが今月から新たに加わりました。ポニーメイツ48期生は、日置市出身の仮屋亜美さんと鹿屋市出身の中塩屋璃歩さんの2人です。2年目の増水巴美さんと共に県内を走り回って旬な情報をお伝えしていきます。



MBCラジオ「モーニングスマイル(月～金 午前6:30～)」では4月8日からの1週間、地域に密着した情報を伝えてくださっている「MBCふるさと特派員」の皆さんのもとを訪ねました。

鹿屋市 門倉 美博さん



門倉さんは鹿屋市にある農園「ダマスキの風」で花の栽培、管理の仕事をしています。その知識と経験をいかし「モーニングスマイル」では季節ごとの花の情報をお伝えしています。中継に

訪れた日は、農園にネモフィラ、ツルコザクラ、ポピーなどが鮮やかな花を咲かせていました。

霧島市 後藤 辰美さん

ふるさと特派員のキャリア40年以上という大ベテランの後藤さんは、お仕事の傍ら「霧島ふるさとガイドクラブ」の会長を務めています。

霧島ふるさとガイドクラブの主な活動は霧島連山の魅力の発信と案内です。今年は霧島が日本初の国立公園に指定されて90年を迎え、注目が集まります。毎年5月末にはミヤマキリシマが見頃を迎えるようで、「季節の花々にも注目してほしい」と話していました。



始良市 浜本 麦さん

浜本さんは、始良市で活動する環境団体「くすのき自然館」の代表を務めています。以前は、観光客が少なかったという重富海岸ですが、「くすのき自然館」の20年以上におよぶ取り組みが実り、「今ではたくさんの方が足を運んでくださるようになった」と話していました。

きらきらと光る錦江湾、穏やかな潮騒に癒された時間となりました。



南九州市 蔵元 たまきさん



南九州市知覧町にお住いの蔵元さんは、地元で60年以上続く写真館「くらもと写真館」を営んでいます。撮影にいらっしゃる方のニーズに合わせて、さまざまな工夫

をしながら思い出に残る写真を撮影されているそうです。長年地域の皆さんを見つめ続けてこられた蔵元さんが発信する地域の話題、これからも楽しみです。

いちき串木野市 竹原 勇輝さん

「たけどん」の愛称で知られるいちき串木野市の竹原さん。普段はいちき串木野市の観光案内所で働いています。

いちき串木野市は日本でも有数のマグロの町として知られており、観光案内所の駐車場にはこのぼりならぬ、「まぐろのぼり」が気持ちよさそうに空を泳いでいました。

まぐろラーメンやさつまあげなど美味しいものが目白押し、食の町で暮らす竹原さんの今後の目標は…「西郷どんと同じ体重にすること」だそうです。

